

6 家庭・地域・関係機関等との連携体制の充実

学校と家庭・地域が共に手を携え、子どもたちの学びや心身の成長を支えていくためには、学校運営協議会を通じて目指す子どもの姿や学校の経営方針等を共有し、連携・協働しながら、教育活動の充実を図るとともに、子どもたちが様々な人とのふれあいを通して信頼関係を築き、人と人との絆の素晴らしさを実感することができるよう、各校の特色を生かした「絆づくり教育プラン」の取組を充実させることが大切です。

また、子どもたちがふるさとへの誇りと愛着を持ち、自らの可能性を広げることができるよう、専門的な知識や技能を持つ関係機関や外部人材を学習活動の様々な場面で積極的に活用するなど、地域や社会との関わりの中で様々な人から学ぶ機会を充実させることが重要です。

■家庭や地域とのつながりを深める体制づくり

- 学校運営協議会で、保護者や地域の方々と、育てたい子ども像や取組の方向性、課題などについての協議を行い、学校と家庭・地域が連携して子どもを支えていく体制づくりに努める。
- 自校の「絆づくり教育プラン」において、地域素材や人材の積極的な活用を図り、子どもたちが人と人との絆のすばらしさを実感し、絆を深めるための取組となるよう工夫する。
- 学校評価等を活用し、保護者や地域、教職員の願いを踏まえた自校の教育活動の工夫・改善を図られるようにする。
- 学校の取組や目指す方向性について、ホームページや学校報等で積極的に発信するなど、地域や社会に開かれた学校づくりに努める。



【地域の方との交流学习】



【登下校の安全指導】



【地域の方による花壇の整備】

■関係機関等との連携にあたって

- 各教科等において、地域と連携した体験活動や講話会を実施するなど、多様な他者との関わりを通して、自分の生き方や社会との結び付きについて考える機会の充実を図る。
- 地域と連携した防災訓練やボランティア活動、地域の祭りや伝統芸能などの地域行事に参加するなどして、地域のために自分たちができることを考え、実践する場を設ける。
- 社会教育施設（→P 6 2 社会教育施設等参照）や地域の史跡、「小・中学校出前講座」を活用するなど、体験活動の充実を図る。